

第2学年国語科学習指導案

1 単元名 お話を楽しもう「スーホの白い馬」

2 単元の目標

- スーホと白馬の心が結びついていく様子について、スーホと白馬のしたことを中心に想像を広げながら読み取ることができる。
- 挿し絵や時間の経過を表す言葉をもとに、場面と場面をつなぎながら、あらすじをとらえる読み方を身に付けることができる。

3 単元の授業課題

- 本時の学習のめあてを前時や学習計画とつなげてとらえさせている。(②)
- 子どもの考えを引き出したり、明確にしたりするために問い返している。(⑭)
- 子どもを注目させ、一回で分かるように発問している。(⑱)
- 活動の時間配分と取り入れ方にメリハリをつけてテンポよく進めている。(㉔)

4 子どもの実態と授業課題

- 本学級の子どもたちは、これまでの物語文「ふきのとう」「スイミー」「お手紙」の学習で、主人公のしたことに着目しながら大まかなあらすじをとらえる学習をしてきた。そして、挿し絵と言葉をつないだり、前の場面とつないだりして読むことを経験してきている。その中で、挿し絵と言葉をつないだり、場面の中で言葉と言葉をつないだりして、登場人物の様子や気持ちを想像して読み取ることができている。しかし、場面と場面をつないで読み深めることが十分ではない。そこで、本単元では、話し合いの中で、一人一人の読みの根拠を明らかにして、読みを深めさせていくための手立てをとっていきたい。
- これまでの授業工夫改善の成果と課題から、本単元では、子どもの考えを引き出したり、明確にしたりするために問い返すこと(⑭)、子どもを注目させ、一回で分かるように発問すること(⑱)の2つを重点的な課題としたい。

子どもたちが場面と場面をつないで読み深めることができなかった要因の一つとして、教師の発問が明確でなかったことが挙げられる。子どもが出した素朴な疑問を具体化しないまま言葉だけで教師が投げかけてしまい、発問があいまいになってしまった。そこで、板書や既習掲示物に着目させながら、子どもたちがどの叙述から考えればいいのか分かるような発問をしたい。また、子どもの発言に対し、「どこからそう考えたの?」や、「どうしてそう思うの?」と問い返しをすることで、叙述に即した読み、言葉に着目しながら様子や気持ちを想像する読みを引き出したい。そして、子どもたちの読み取った人物の様子や気持ちが深まるようにしたい。

5 教材の考え方と授業の工夫改善

本教材は、話の場となるモンゴルの広い草原の様子、主人公スーホの人柄、スーホと白馬の出会い、スーホと白馬の心が結びついていく様々な出来事、スーホの馬頭琴がモンゴルの草原中に広がっていく様子という順序で話が展開し、子どもたちにとってあらすじがとらえやすい構成になっている。

そこで、まず、冒頭の課題文に続く「それには、こんな話があるのです。」という文に着目させる。そして、モンゴルに馬頭琴という楽器ができたわけにはどんな話があったのかを読む必要感をもたせ、スーホがしたことを展開の順序に沿って正しくたどっていけるような読み通しのめあてを生み出させたい。しかし、本教材は相当な長文であるため、あらすじをとらえるための基礎として、音読練習の時間を十分にとっていきたい。その上で、読み通しのめあてに沿って全文を読み通し、時間の経過を表す言葉と挿し絵を対応させながら、したことの順序をおさえさせる。そして、スーホのしたことを軸に場面のあらすじをとらえる学習をしていく。さらに本教材は、複合語による行動の描写、会話による心情表現が多いため、気持ちの読み取りに偏りがちになりやすい。そこで、場面ごとにスーホがいつ、どこで、何をしている場面か挿し絵とつなぎ、スーホの行動に着目させ、あらすじをとらえる指導への工夫改善を図っていく。学習のまとめとしては、読み通しのめあてに戻り、馬頭琴ができたわけを自分がとらえた話として、順序よく書けることを目標としている。

6 単元の学習計画（全16時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点（※工夫改善の項目）
読み通しのめあて	1 ／ 14	<p>題名「スーホの白い馬」から話の方向をとらえ、馬頭琴ができたわけへの疑問とつないで、読み通しのめあてを生み出す。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。 2 題名について話し合う。 3 冒頭を読む。 (1)冒頭を音読する。 (2)一文ずつ詳しく読む。</p> <p>4 読み通しのめあてをつくる。</p> <p>読み通しのめあて</p> <p>どうしてモンゴルに馬頭琴というがっきができたのだろう。それには、どんな話があったのだろう。</p>	<p>○ 既習の「スイミー」「お手紙」の学習を想起し、今日の学習のめあてを意識づける。</p> <p>○ 挿し絵から、モンゴルの紹介を読み取らせ、「スイミー」の学習を想起し、「くらしてしました」の意味を考える。</p> <p>※ 馬頭琴を挿し絵で確かめ、馬頭琴について説明している文をていねいに一文ずつ読むことで、読み通しのめあてにつなぐ。(㉞)</p> <p>○ 冒頭の「いったい、どうして、こういうがっきができたのでしょうか。」と、「それには、こんな話があるのです。」の文に問題意識をもたせ、読み通しのめあてを作らせる。</p>
予見	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ／ 14	<p>読み通してのめあてをもとに全文を読んで、どんな話があってモンゴルに馬頭琴という楽器ができたのか、その話を予見として書きまとめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。 2 全文を音読する。 (1)範読を聞く。 (2)新出漢字の読み書きや難語句を確かめる。 (3)音読の練習をする。</p> <p>3 挿し絵を順に並べ、時間の経過を表す言葉を見つける。</p> <p>4 スーホのしたことを読み取る。 (1)スーホの人柄を読み取る。 (2)スーホのしたことを読み取る。</p> <p>5 スーホがしたことを予見として書きまとめる。</p>	<p>※ 前時の読み通しのめあてを確かめる。(㉟)</p> <p>○ 時間の経過を意識付けながら範読する。</p> <p>○ 新出漢字の読み方・書き順・分からない言葉について理解させる。</p> <p>○ 一斉・列・グループ・個人別に練習させる。</p> <p>○ はじめと終わりの挿し絵を並べた後、5枚の挿し絵の順序をとらえさせる。</p> <p>○ 時間の経過を表す言葉を見つけ、挿し絵と対応させる。</p> <p>※ スーホが出てくることを確認し、題名とつなぎ、スーホの人柄を読み取らせる。(㊱)</p> <p>○ 「スーホは」「スーホが」という主語に気をつけさせ、スーホがしたことが分かる文にサイドラインを引かせる。</p> <p>○ スーホが出てこない場面では、スーホが今、どこで、何をしているのか想像させる。</p> <p>○ 挿し絵と時間の経過を表す言葉とマス目の入ったプリントに、各場面ごとに書かせるようにする。</p> <p>※ 場面ごとに時間を区切って進める。(㊲)</p>
学習計画	6 ・ 7 ／ 14	<p>予見を話し合い、スーホのしたこととわけ、気持ちでもっと詳しく知りたいことや疑問に思うことを出して整理し、各場面で読み確かめる視点を生み出す。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。 2 予見を発表する。 3 友達の予見と比べて見直す。</p>	<p>○ 前時の予見の傾向や個人差をカルテで把握し、発表の指名計画を立てておく。</p> <p>※ 予見の発表では、どこから考えたのかや、友達の発表と同じだったかどうかなど問い返すことで、よさを全体に広げて気付かせる。(㊳)</p>

		4 各場面のスーホの様子を読み確かめるための、疑問を出し合う。	○ 挿し絵と叙述を対応させて板書し、場面をとらえさせ、スーホがしたことを中心に疑問を出させ、カードで視覚的に整理する。
読み確かめ①	8 / 14	ある日、スーホが子馬を抱きかかえて帰り、世話をすすくと育つまでの順序を読み取り、子馬への気持ちを想像しながらあらすじを読み確かめる。 1 本時のめあてを確かめる。 2 本時場面を音読する。 3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。 4 スーホの様子や気持ちを話し合う。 (1)子馬を抱きかかえてきたわけについて話し合う。 (2)心をこめて世話をした様子について話し合う。 5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。	※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(②) ○ だきかかえるという複合語は「だく」と「かかえる」を合わせたものであることを補説し、動作化などで、スーホの気持ちを想像させる。 ○ 心をこめてどんな世話をしたのか想像させる。 ※「おばあさんとふたりきり」とつないで、心をこめて世話をしたわけを問う。(⑩)
読み確かめ②	9 / 14 本時	あるばん、スーホが目をさまし、兄弟に言うように話しかけるまでの順序を読み取り、白馬への気持ちを想像しながらあらすじを読み確かめる。 1 本時のめあてを確かめる。 2 本時場面を音読する。 3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。 4 スーホの様子や気持ちを話し合う。 (1)スーホが跳ね起きて外にとび出し、かけつけた様子を話し合う。 (2)会話を音読し、兄弟に言うように話しかけるスーホの気持ちを想像し話し合う。 5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。	※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(②) ○「はねおきる」「とびだす」「かけつける」の複合語の意味を確かめ、急ぐ様子が強調されていることに気付かせる。 ※ 大切な羊を命がけで守ったことへの感謝の気持ちが、会話文に込められていることを読み取らせる。(⑩)
読み確かめ③	10 / 14	ある年の春、スーホが町のけい馬に出て一等になったのに、白馬をとのさまに取り上げられ、うちに帰るまでの順序を読み取り、スーホのかなしみを想像しながらあらすじを読み確かめる。 1 本時のめあてを確かめる。 2 本時場面を音読する。 3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。 4 スーホの様子や気持ちを話し合う。 (1)白馬がとのさまに取り上げられたわけを話し合う。 (2)白馬のことばかり考えているスーホの様子を読み取り、気持ちを想像し話し合う。 5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。	※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(②) ○ スーホととのさまの会話文を音読し、とのさまのわがままや、スーホの悔しい気持ちを読み取らせる。 ※ 白馬のことばかり考えていることについて、どことつないで読んだのかを、問い返すことで明確にする。(⑭)
読み確かめ④⑤	11 / 14	ある日、白馬がかけ出し、村へ帰ってきて、そのばん、スーホが白馬にささっている矢をぬくまでの順序を読み取り、死んでいく白馬への気持ちを想像しながらあらすじを読み確かめる。 1 本時のめあてを確かめる。 2 本時場面を音読する。	※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(②)

	<p>3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。</p> <p>4 スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1)白馬が走り続けている時のスーホの様子や気持ちを想像し話し合う。</p> <p>(2)スーホがはね起きてかけていったわけについて話し合う。</p> <p>(3)歯を食いしばりながら矢を抜いた様子や気持ちについて話し合う。</p> <p>5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。</p>	<p>○ 「はねおきる」の複合語から、白馬が帰ってきたことに驚き、急ぐスーホの様子を読み取らせる。</p> <p>※ 白馬に話しかけるスーホがどこを見て、どのようにしているのか発問することで、白馬のことを心配する気持ちを想像させる。(18)</p> <p>○ 会話文を音読することで、スーホの気持ちを読み取らせる。</p>
読み確かめ⑥	<p>12 / 14</p> <p>あるばん、スーホが白馬の夢を見て、楽器を組み立てていくまでの順序を読み取り、白馬への気持ちを想像しながらあらすじを読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。</p> <p>4 スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1)いくばんも眠れなかったスーホの気持ちを話し合う。</p> <p>(2)楽器を組み立てるスーホの様子や、気持ちを話し合う。</p> <p>5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。</p>	<p>※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(2)</p> <p>※ スーホの悲しい気持ちや、悔しい気持ちをどこつないで考えたのか問い返すことで、考えを明確にさせる。(14)</p> <p>○ 「ほね、かわ、すじ、毛」を白馬の会話文と重ね、冒頭の馬頭琴の説明と比べて、スーホが頭をつけようと考えたことに気付かせる。</p>
読み確かめ⑦	<p>13 / 14</p> <p>スーホがどこへ行く時も馬頭琴を持って行き、馬頭琴という楽器が広いモンゴルの草原中に広がるまでの順序を読み取り、スーホと聞く人の気持ちを想像しながらあらすじを読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 スーホのしたことに線を引き、順序を確かめる。</p> <p>4 スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1)スーホが馬頭琴を弾いている時の様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(2)周りで聞いている人の様子や気持ちを話し合い、馬頭琴がモンゴルの草原中に広がったわけを想像する。</p> <p>5 学習して詳しくなった話をお家の人に書いて知らせる。</p>	<p>※ 学習計画から、読み確かめる疑問とつないでめあてを意識付ける。(2)</p> <p>○ スーホがどうなったかわかる文3つを確かめさせる。</p> <p>※ 挿し絵と叙述をつないで発問し、スーホが馬頭琴を大事にもっていることに気付かせる。(18)</p> <p>○ 「聞く人の心をゆりうごかす」様子を、挿し絵を使って読み取り、馬頭琴が次第に増えていったことを想像させる。</p>
読み方と読みのまとめ	<p>14 / 14</p> <p>読み確かめたことをもとに、読みのまとめと読み方のまとめをする。</p> <p>1 前時までの読み取りプリントを振り返り、モンゴルに馬頭琴という楽器ができたわけを自分のお話としてあらすじを書きまとめる。</p> <p>2 お話のあらすじをつかむための読み方やことばについて振り返り、読み方のまとめをする。</p>	<p>○ 読み通しのめあてに戻り、モンゴル中に次第に馬頭琴が広がっていったお話をまとめさせる。</p> <p>※ 場面ごとに時間を区切り、書きまとめが進むようにする。(16)</p> <p>○ これまでの読み方のたからを、前面掲示板に掲示し、振り返らせる。</p>

7 本時（9 / 1 4）読み確かめ②

8 本時の学習目標

- ある晩スーホが目を目を覚まし、おおかみを追い払って白馬に兄弟に言うように話しかけるまでの様子や気持ちを順序よく読み、スーホの白馬に対する思いを読み深めることができる。
- 挿し絵を読む読み方、場面と場面をつないで読む読み方を理解することができる。

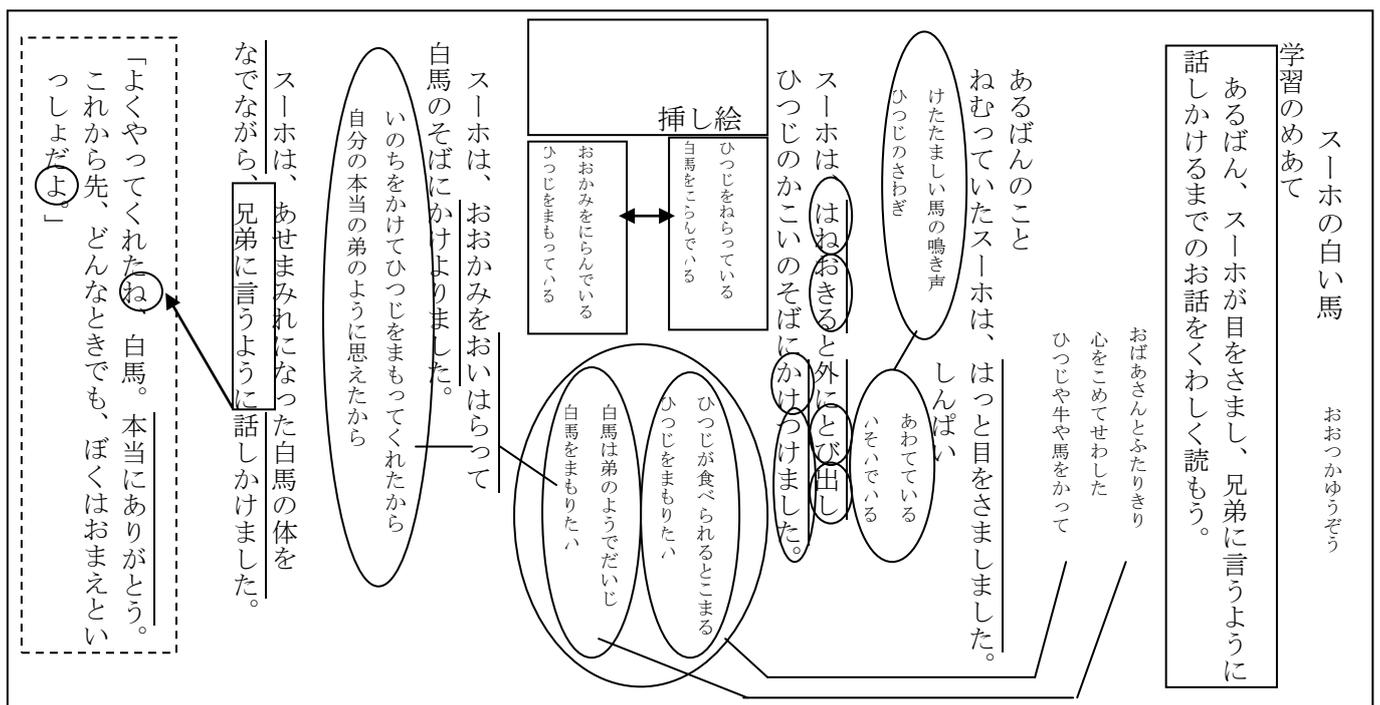
9 本時の授業課題

- 子どもの考えを引き出したり、明確にしたりするために問い返している。(14)
- 子どもを注目させ、一回で分かるように発問している。(19)

10 本時の授業の工夫改善の考え方

- 前時までに子どもたちは、場面2からスーホが子馬を抱きかかえて帰り、一日一日と心を込めて世話をする様子や子馬への思いについて想像を広げて読み取ってきている。本時は、おおかみの前に立ちふさがって、必死に防ごうとする白馬に、兄弟に言うように話しかけるスーホの様子や気持ちを読み確かめる学習である。
- 本時の授業では、まず、場面2で書きまとめた代表児童の読み取りプリント「今日の学習で」をモデルとして紹介することで、前時内容を想起させるとともに、本時学習への見通しを持たせるようにする。
次に、本時場面でスーホがしたことがわかる文にサイドラインを引き、順序よく発表させることで、話の枠組みをはっきりさせる。
そして、「はねおきる」「とび出す」「かけつける」の複合語から、スーホがあわてている様子を読み取らせる。
さらに、おおかみから必死にふせぐ白馬の様子を挿し絵と叙述をつないで読み、おおかみと白馬の間に入って白馬を守るスーホの様子を動作化をさせることでスーホの気持ちを想像させ、なぜスーホがおおかみを追い払ったのかを考えさせたい。
また、ここでは、子どもたちの発言に問い返すことにより、場面1や場面2の叙述とつないだ子どもの読みを引き出し、白馬がスーホにとって家族のように大切な存在であることに気付かせたい。
それから、会話文の音読を通して、スーホが白馬に兄弟に言うように話す言葉を見つけさせ、スーホの気持ちを想像して読んだ後、音読を通してスーホの白馬に対する思いを確かめる。

11 板書計画



12 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点（※工夫改善の項目） ㊦評価基準
<p>1 前時を想起し、本時学習のめあてを確かめる。</p> <p>学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>あるばん、スーホが目をさまし、兄弟に言うように話しかけるまでのお話をくわしく読もう。</p> </div>	<p>○ 前時に書きまとめた読み取りプリントを紹介し、場面2のスーホの様子や気持ちを想起させるとともに、本時への意欲を高める。</p> <p>○ 学習計画をもとに、本時場面でのスーホがしたことを確認する。</p> <p>○ めあてを確かめ、本時場面での疑問を確認し、板書に位置付ける。</p>
<p>2 本時場面3を音読する。</p> <p>3 スーホがしたことがわかる文を見つけ、発表する。</p> <p>4 スーホの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>(1)スーホがはねおきて外にとびだし、かけつけた様子をくわしく読む。</p> <p>(2)スーホがおおかみをおいはらった様子とわけをくわしく読む。</p> <p>○ どうやっておいはらったのか考える。</p> <p>○ なぜおいはらったのかを2の場面とつないで考える。</p> <p>(3)スーホが兄弟に言うように話しかけた様子や気持ちをくわしく読む。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(1)本時の学習でくわしくなったことを振り返る。</p> <p>(2)読み方の確認をする。</p> <p>(3)学習でくわしくなった話をお家の人に書いて知らせる。</p> <p>(4)次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ スーホが目を目を覚ましてから話しかけるまでの様子に気を付けながら、口形に気を付けてはきはきとした声で読ませる。</p> <p>○ 列指名で順序よく発表させて板書し、読み確かめの疑問や教師からの問いと対応させる。</p> <p>○ 「はねおきる」「とび出す」「かけつける」という複合語から、スーホが慌てて、急いでいる様子に気付かせる。</p> <p>○ 挿し絵を使って、白馬が羊を必死におおかみから防ぐ様子を読み取らせる。</p> <p>○ おおかみをおいはらうスーホの様子を動作化することで、白馬のことを必死で守ろうとするスーホの気持ちを想像させる。</p> <p>※ 動作化している子どもに、「だまっておいはらったの。」と発問することで、必死に守るスーホの気持ちを想像させる。(㊦)</p> <p>※ そこまでしておいはらったわけを、前の場面や冒頭とつないで考えさせることで、白馬に対する気持ちを想像させる。(㊦)</p> <p>T：おおかみは、きばもあるし人間もかみつかれてしまうよ。ぶつかってきたらたおれてしまうかもしれない。それなのに、どうしてスーホは、おおかみをおいはらおうとしたの。</p> <p>C：白馬のことが大事だからです。</p> <p>※ さらに問い返すことで、スーホが白馬を大事に思う気持ちを、前の場面や冒頭とつないで考えさせる。(㊦)</p> <p>T：どこからそう思うの？</p> <p>○ スーホが白馬の身体をなでながら、兄弟に言うように話しかけたことを叙述で確かめ、会話文を音読する。</p> <p>※ 兄弟に言うように話しかける様子を読み深める発問をする。(㊦)</p> <p>T：元気よく読めたね。だけど、どんなふうに話しかけたって書いてある？</p> <p>C：白馬の体をなでながらと、兄弟に言うように</p> <p>T：兄弟に言うように言ってるなあと思う言葉がこの中にある？</p> <p>○ おおかみをおいはらったわけと、兄弟に言うように話しかけたわけを振り返る。</p> <p>○ 「前の場面とつなぐ」「複合語を読む」「名前の呼び方のちがいをよむ」という読み方を使ったことで、お話が詳しくなったことを確かめる。</p> <p>㊦ 「あるばんのこと、スーホは…」という書き出しで、スーホが白馬に話しかけるまでの話を書きまとめることができる。</p> <p>○ 「あるばんのこと、スーホがおおかみをおいはらったよ。そのわけはね、～だからだよ。そして、兄弟に言うように話したわけはね、～だからだよ。」というまとめ方も選べるようにしておく。</p>